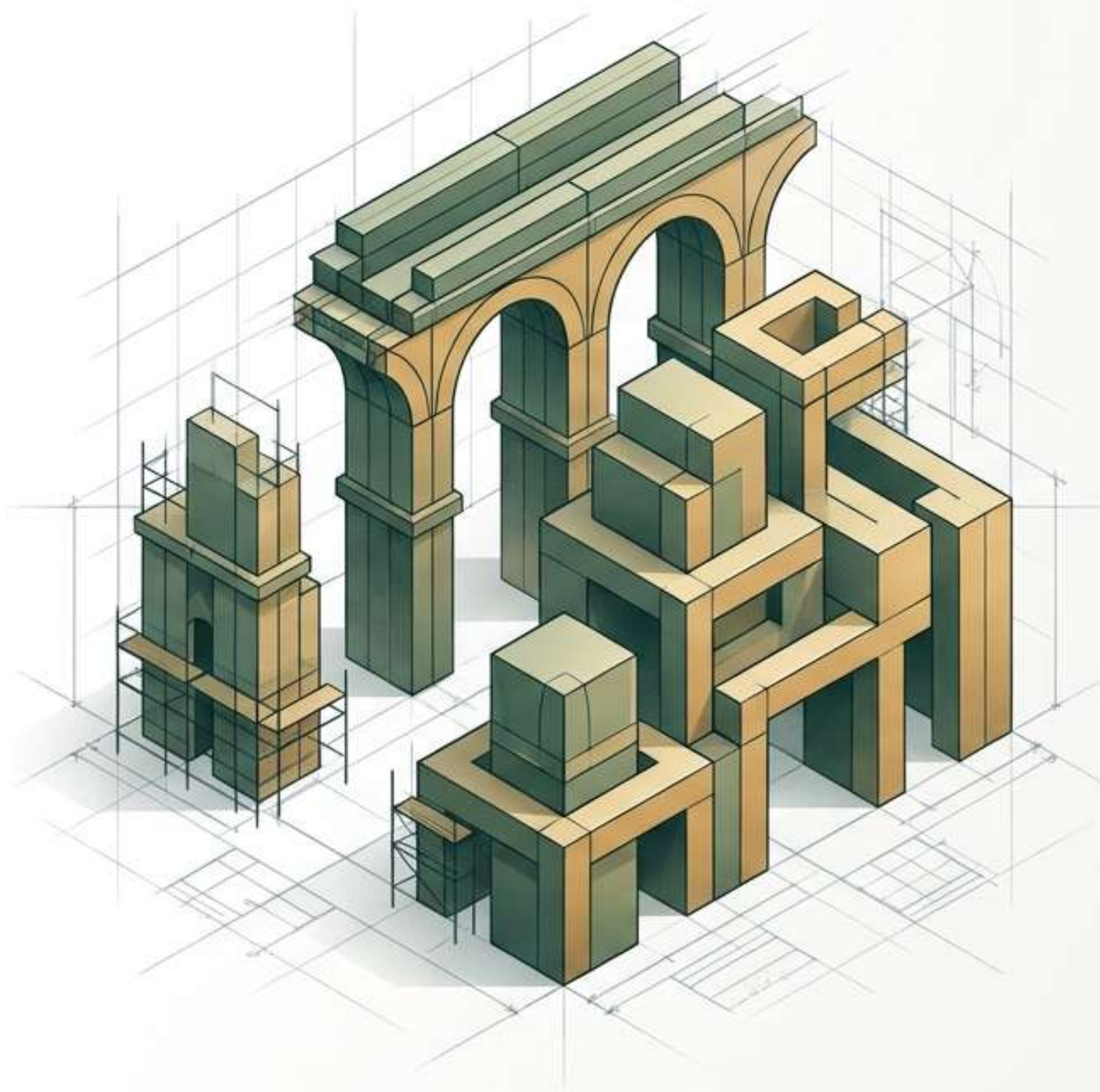




令和8年度 研究全体構想

自分の考えをもち、 適切に表現しようとする 子どもの育成

～諸調査分析結果を活用した授業改善～

学校教育目標: ゆたかでたくましい人になるために

深く考え
やりぬく子ども

仲よくはげまし
合う子ども

よく運動し
元気な子ども

自ら進んで
働く子ども

育てたい子どもの姿

- ① 根拠明確にして自分の考えを表現することのできる子ども
- ② 他者の考えを聞き、自分の考えを広げたり、理解を深めたりする子ども

児童の実態：現在の強みと成長のボトルネック

友達と協働的に問題解決を進めようとする学習態度は育ってきている。

(データ：R7児童アンケート)

ボトルネック1

自分の考えをもつ児童は増えたが、考えの理由や根拠をはっきり伝えられない。

(データ：R7県学調及び日々の見取り)

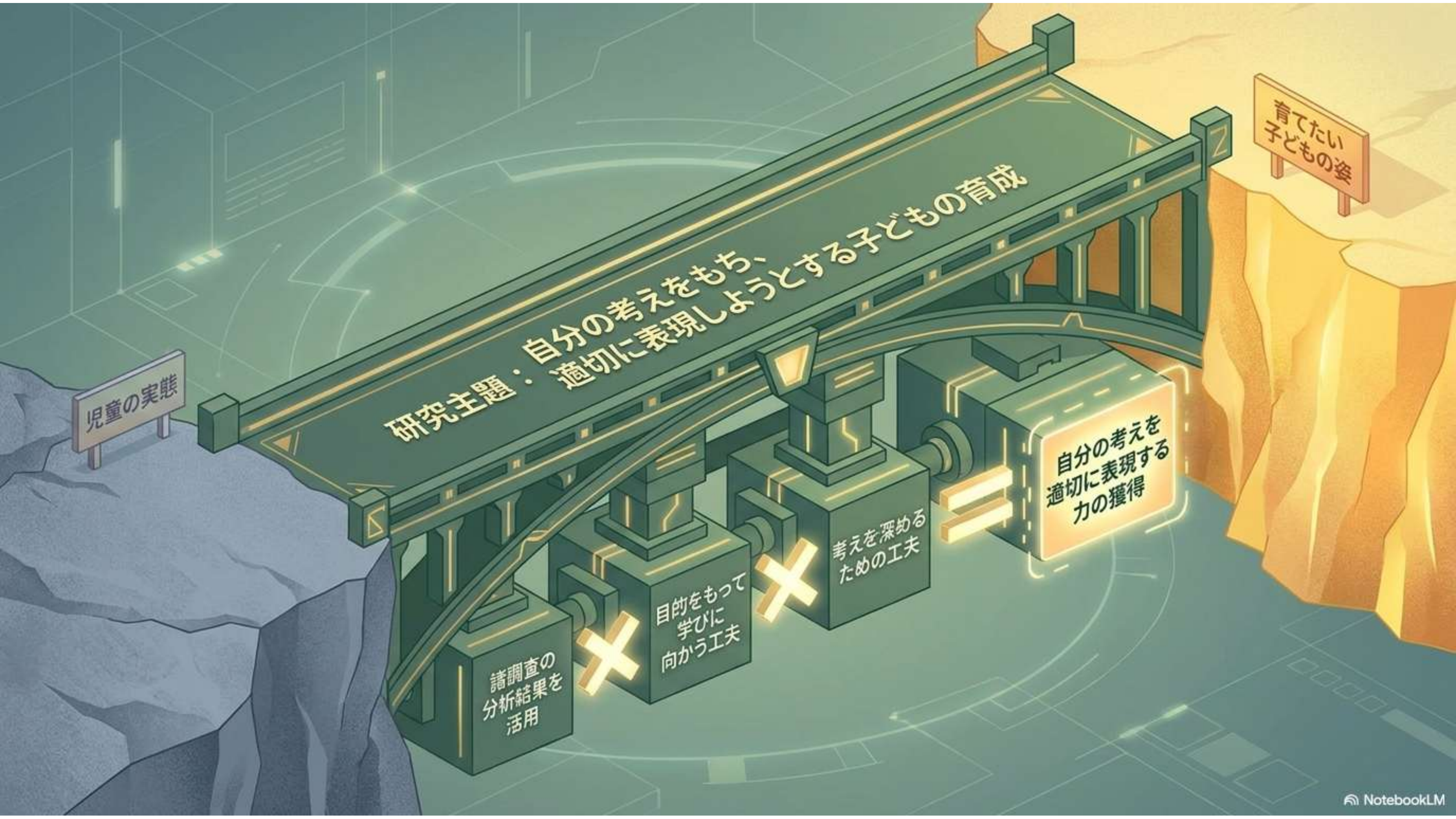
ボトルネック2

自分の考えを伝え合って終わりにになってしまう。相互作用が発展しない。

(データ：R7全国学調及び日々の見取り)

考えはもっているが、「根拠づけ」と「深まり」に課題がある。

現在の強み



児童の実態

研究主題：自分の考えをもち、とうとする子どもの育成

育てたい
子どもの姿

諸調査の
分析結果を
活用

目的をもって
学びに向かう工夫

考えを深める
ための工夫

自分の考えを
適切に表現する
力の獲得

授業改善を支える2つの柱(手立て)



※両輪が機能することで、単なる「活動」が「深い学び」へと昇華する。

手立て1の展開：目的意識と「自己の変容」のサイクル



手立て2の展開：根拠の構築と学び合いの深化

個の思考



ア 理由や根拠を明確にして自分の考えをもつことができるようにする。(強固な土台作り)

協働の思考



イ 自分の考えを広げたり、理解を深めたりできる学び合いを設定する。(考えの拡張と深化)

「伝え合って終わり」(児童の実態③)を打破し、他者の視点で自己の考えを再構築する。

令和8年度 全体構想図 (The Blueprint for Deep Learning)

手立て1:目的をもつ

学校教育目標：
ゆたかでたくましい人
になるために

育てたい子どもの姿：根拠をもった表現と、他者との協働による深化

手立て2:考えを深める

研究仮説：諸調査の分析結果を活用

データから見えた協働性の強みと、根拠づけ・深まりの課題

児童の実態



データの分析から、確かな「深い学び」へ。

諸調査の分析を起点に、「目的をもつこと（手立て1）」と
「考えを深め合うこと（手立て2）」を日々の授業デザインに組み込む。

その積み重ねが、自らの思考に自信をもち、
適切に表現できる子どもたちを確実に育てていきます。

本構想を共通の青写真（Blueprint）とし、各学年・各教科での実践へと展開していきましょう。